

宮崎市文化財調査報告書第84集

ひら ばた い せき
平 畑 遺 跡

国立大学法人宮崎大学構内出入口整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2011

宮崎市教育委員会

序

本書は、宮崎市学園木花台西1丁目1番地、国立大学法人宮崎大学の構内入口整備に伴い、宮崎市教育委員会が平成22年3月8日から平成22年3月30日まで発掘調査を実施した平畑遺跡の発掘調査報告書です。

平畑遺跡は、東に太平洋を望む台地上に営まれた遺跡です。この台地上には平畑遺跡を始め、多数の遺跡が存在しています。30年ほど前、この地に宮崎大学や周辺の学園都市を建設する際に大規模な発掘調査が実施され、宮崎市だけでなく、宮崎県の歴史を語る上で重要な数多くの成果がありました。今回の発掘調査も規模は小さいものですがその歴史に新たな1ページを加えるものです。ただ、開発に伴う発掘調査によって、多くの歴史が明らかにされる一方で、その数だけ先人の記憶を残した遺跡が破壊されていることも、私達は胸に留めなければならないと思います。

最後に、発掘調査にあたりご協力いただきました国立大学法人宮崎大学を始め関係機関の皆様、ご指導、ご教示をいただきました先生、発掘調査に従事された作業員の皆様など、関係者の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

宮崎市教育委員会

教育長 二見俊一

例 言

1. 本書は、平成 21 年度に実施した国立大学法人宮崎大学構内出入口整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査、整理作業は宮崎市教育委員会が国立大学法人宮崎大学から委託を受け、下記の期間実施した。
発掘調査：平成 22 年 3 月 8 日～平成 22 年 3 月 30 日
整理作業：平成 22 年 11 月 17 日～平成 22 年 11 月 26 日
3. 発掘調査により出土した遺物及び調査における図面、写真等は宮崎市教育委員会で保管している。
4. 調査組織
調査主体 宮崎市教育委員会
(平成 21 年度)
文化財課 課長 永井 淳生 (平成 22 年 3 月 22 日まで)
課長事務取扱 井上 雄二 (平成 22 年 3 月 23 日から)
埋蔵文化財係 係長 富永 英典
予算執行 主査 松崎 留美
調整事務 主任技師 稲岡 洋道
調査員 主任技師 石村 友規
嘱託 鈴木 弘子
(平成 22 年度)
文化財課 課長 田村 泰彦
埋蔵文化財係 係長 富永 英典
予算執行 主事 戸高 佑輔
調整事務 主任技師 稲岡 洋道
調査員 主任技師 石村 友規
整理作業員
5. 現地における空中写真撮影は、有限会社スカイサーベイ九州に、基準点・水準点測量は有限会社三協測量設計事務所に委託した。
6. 掲載した遺構図面の実測は石村・鈴木、遺物図面の実測は整理作業員が行い、製図・図版の作成は石村が行った。
7. 写真撮影は石村が行った。
8. 本書の執筆、編集は石村が行った。
9. 本書において使用する座標は世界測地系であり、方位記号は真北を指す。
10. 現地調査において国立大学法人宮崎大学施設環境部のご協力を得た。
また柳沢一男氏 (宮崎大学教授) からご教示、ご指導を賜った。

目次

第Ⅰ章 位置と環境	
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査の成果	
1 調査に至る経緯	3
2 基本層序	3
3 調査の概要	3
4 アカホヤ火山灰層上遺構	5
5 アカホヤ火山灰層下の調査	6
6 出土遺物	6
第Ⅲ章 総括	8
写真図版	9

表目次

第1表 出土遺物観察表	7
-------------	---

写真図版

図版1	9
図版2	10
図版3	11

指図目次

第1図 平畑遺跡位置図	2
第2図 平畑遺跡調査区位置	2
第3図 平畑遺跡基本層序模式図	3
第4図 平畑遺跡調査区平面図	4
第5図 調査区東壁七層断面図	5
第6図 溝状遺構土層断面図	5
第7図 出土遺物実測図	6

第 I 章 位置と環境

1 地理的環境

平畑遺跡は宮崎市学園木花台に所在する。名前から察せられるとおり、旧来の地名ではなく、この地に宮崎大学を誘致する際に大規模造成（宮崎学園都市）を行い、新たに造られた町、地名である。この宮崎学園都市の建設に伴い宮崎県文化財課により発掘調査が行われ、宮崎学園都市遺跡群として多くの遺跡が調査、報告された。平畑遺跡もその際に一部が調査されている。

平畑遺跡が所在する学園木花台は「台」という文字が表すとおり、南北を清武川と加江田川に挟まれた標高約 10m～50m 程度の台地となっている。今回の調査地は標高約 24m に位置し、台地の中央南西寄りに位置する。調査区のすぐ南側から一段低くなり、加江田川へ向かう緩斜面地の標高約 13m 付近まで山下遺跡群が立地する。

加江田川の南側には双石山に代表される山塊が東西に広がっており、この山沿いを雲が流れることから、宮崎市の中でも降水量が多い地域である。



着手前状況（南から）



作業風景（南西から）

2 歴史的環境

今回調査対象地となった周辺では、前述のとおり平畑遺跡を含め、宮崎学園都市遺跡群の調査によって多くの遺跡の内容が明らかとなっている。主要なものを挙げると、宮崎県教育委員会が行った平畑遺跡の調査では、縄文時代後・晩期を中心とした集落、平安時代の集落などが検出されている。特に縄文時代の集落は、後の調査も含めると 67 軒の竪穴建物が検出され、宮崎県を代表する集落遺跡である。また駐車場整備に伴って宮崎大学によって試掘調査が行われており、縄文時代後期の竪穴建物 3 軒、土坑 1 基、中世の溝状遺構 2 条等が検出されている。

平畑遺跡から谷を挟んで北側、標高 50m 付近には、旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代草創期から早期の土器、集石遺構等が確認された堂地西遺跡が所在する。平畑遺跡から東へ台地上を進むと弥生時代後期集落を中心とする堂地東遺跡、さらに台地上を東に進むと弥生時代終末期を中心とする集落遺跡である熊野原遺跡が所在する。この 2 つの遺跡では、竪穴建物の形態がいわゆる日向型間仕切り住居と呼称される突出壁をもつ建物を中心となる。

台地の東端では、中世山城の今江城跡が、南東部でも車坂城跡が調査されている。今江城は広義の車坂城の西の曲輪の一群であり、この調査において、宮崎県内で始めて縄張り調査と発掘調査を組合わせて行われた。

その後も土地区画整理や宅地造成に伴う発掘調査が宮崎市教育委員会により行われた。平畑遺跡の南側、台地縁辺の緩斜面地に西から東に向かって山下遺跡、車坂遺跡が広がっている。山下遺跡、車坂遺跡では、縄文時代早期、弥生時代中期後半から後期後半に至る時期を中心とした調査成果が得られている。台地の北端に位置する熊野第 2 遺跡では、弥生時代後期を中心とした遺構、遺物が検出されている。

以上のように、平畑遺跡が所在する台地上では、旧石器時代以降、中心となる場所は変化するものの連綿と人々の生活が営まれてきたことが窺い知れる。